

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	電子情報学特別実験第二		
英文授業科目名	Laboratory		
開講年度	2004年度	開講年次	
開講学期	前学期・後学期	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法		単位数	6
科目区分	電気通信学研究科-電子情報学専攻-必修科目		
開講学科・専攻	電子情報学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
	http://www.ice.uec.ac.jp/staffj.html

<p>【主題および達成目標】</p> <p>進めている研究テーマおよびその周辺に関連した具体的課題について、処理システム、実験システム、装置の具体的設計、製作、試行・評価と結果のフィードバックを経験する。これにより情報通信工学の各専門分野において自立した研究者となるための高度な実践的技術力を会得する。</p> <p>情報通信工学特別輪講第二、情報通信工学特別演習第二と併行して情報通信工学特別実験第二を実施し、具体的課題解決のために、自立的で高度な調査・立案・遂行・評価を実施する。</p> <p>情報通信工学特別実験第二の遂行に当たっては、進捗状況ならびに発生した新たな課題などを研究室・研究グループ内で発表討論し、課題解決のためのより合理的な付加価値の高い手法の開発に務める。得られた成果は国内外の学会において発表できるレベルであることを要する。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>

<p>【教科書等】</p> <p>【参考書】 情報通信工学に関する国内外の学会誌、論文誌に掲載された研究論文、国際会議プロシーディング、国内外専門書、実験装置マニュアル、CADマニュアルなどを適宜用いる</p>
--

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

【成績評価方法および評価基準】

自らが課題としたテーマに関する処理システム、実験システム、装置の具体的設計、製作、試行・実験結果に関する報告書をまとめるとともに、得られた結果を発表・討論する。これらの総合過程を担当する教官群により評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

今までは先人が築いた情報通信工学に関する学問を学んで来たわけであるが、今後は皆さんが情報通信工学の分野に1ページを書き加える番である。このためには設定された具体的課題を、自ら具体的に解決してゆく過程の経験み、自らの研究方法論を確立することが重要である。